中国生産性本部 創立40周年講演

人間尊重を理念に企業体質改善などに取り組む中国生産性本部（会長・松谷健一郎中国電力常任相談役）の創立四十周年記念特別講演会が十三日、岡山市内のホテルで開かれた。グレゴリー・クラーク多摩大学学長が「行政・経済改革の展望～時代を拓く新日本の構築」、菅波茂AMDA（アジア医師連絡協議会）代表が「AMDAの現状とこれからの地域ボランティア活動」と題して講演、参加した岡山県内の企業や労働組合関係者ら約二百人が熱心に聞き入った。以下は両氏の講演要旨。

行政・経済改革の展望～時代を拓く新日本の構築

多摩大学学長 G・クラーク氏

横並び意識捨て個人主義を

これからの日本経済の進路を考える両に、日本が敗戦の荒廃から自覚まし い復興を遂げた理由は何なのか、を分析しなくてはならない。勤勉さは、日本人の勤勉性が、世界でも例のないほど成長を支えてきたと言われる。しかし、私はそれには疑問を持っている。勤勉さ で言えば、欧米や中国、東南アジアでも日本と同じように勤勉な労働力が多い。日本人どうしたら社会的な違いは、集団主義と個人主義の違いだと思う。

日本の勤労者の多くは、会社に一体感を持っている。会社の発展のため、一致団結して頑張る。会社が危機に陥ったり、会社が倒産したりすれば、失業する。会社の運命共同体意識は非常に効率的となる。日本のように社員が会社に対して運命共同体意識を抱いている企業風土は、欧米にはない。

日本の勤労者は、会社の中では、ある意味で組織は非常に効率的となる。会社の発展のため、目的を優先し、会社が危機に陥ったり、会社が倒産したりすれば、失業する。会社の運命共同体意識